

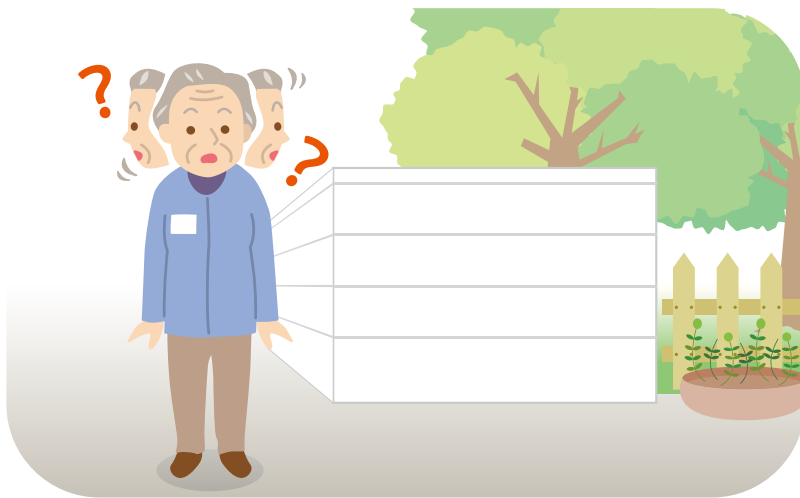
認知症

認知症の人は、記憶すること、理解や判断することが難しくなり、進行すると日常生活や社会生活に支障をきたす場合があります。しかし、早期に発見して対応することで、症状が軽くなることや、遅らせることができます。周囲の人が認知症について正しい知識をもち、適切に接することで、認知症になっても本人やその家族が地域で安心して生活を送ることができます。

困っていることを理解しましょう

認知症が進行すると、物忘れ、理解・判断力の低下など様々な症状が現れてきます。具体的な症状としては、今切ったばかりの電話の相手の名前を忘れたり、頻繁に物の置き忘れや紛失をしたり、約束の日時や場所を間違えたりということがあります。また、話のつじつまが合わず、同じことを何度も繰り返し言うことがあります。また、料理や部屋の片付け、計算ができなくなったり、身だしなみに気を遣うことができなくなったりすることがあります。

不安感が強くなるため、外出時に何度も持ち物確かめたり、独りになるのを怖がったり、逆に人と会うのを避けたりすることもあります。



自宅に帰る途中で、道に迷い、どうやって帰ってよいのかが分からなくなることがあります。

トイレの使い方が分からなくなったり、男女のトイレを間違えたりすることがあります。



音声コード

